

さて、今年は……。

加藤文子

一月半ば頃から、徐々に日が長くなる。外はとても寒いんだけど、心の中では春を想っている。今年はどんな出会いが待っているのだろう、何が起り展開していくだろう。

春たけなわ湧き出るミドリに心はずませる。

夏は日射しを避けながら草取りしたり、体が続くように工夫して外仕事をする。それでも暑い暑いとボヤいてみたり、休憩にはアイスクャンディを頬張る。

猛暑の下での盆栽の水やり、ひと鉢ひと鉢目を配って見落とさないよう心を凝らす。これだけは怠ってはいけないと……。

汗をぬぐいながら木陰に身を置いた瞬間、涼しい風が通り過ぎることがある。この体感は格別。トンボが飛び交い、チロチロ虫の音が耳に届くようになって、暗くなるのはやくなつて、秋到来である。数日を境に雨に冷たさを感じる。ぬか漬けのつかりも遅くなった。



ゲンノシヨウコの赤紫の花が茎を伸ばしながらこぼれ咲こうとしている。いつの間にか増えたホトトギスが茎を弛ませて、棚下の地面すれすれのところでうす紫や白色の花を咲かせている。リンドウも蕾を膨らませて張り切っている。

コムラサキの紫の実、ウメモドキや西洋カマツカの赤い実等、かつ色を帯びた葉と共に、庭は秋色に染まりはじめる。

来春開花する木ブシの房状の花芽が目に残まる。次の春も来るよネ、そんな思いが頭を過る。

今年は隣の林のクルミが豊作のようで、リスが頻繁におとずれる。庭のあちらこちらに食べ残しが殻と一緒にころがっている。忙しく動きまわる姿が可愛い。こんな光景を目にするのは、はじめてだ。

暑さに飲み込まれそうになった夏から解放されて安心したのか、秋のはじめ夫も私もめずらしく調子をくずす。大したことではないと思っていたところが、アレヨアレヨという間に悪化してしまい、回復に時間があった。

とはいえ展覧会の搬入搬出の日程をぬうように発症してくれたので、支障を来さずに済んだことは幸いだった。

些細な事柄がどんな方向へ向かうのかわからない。物事は未知数のことを孕んでいる。数日不調がつづいただけで、困惑する自分もいた。

普通に動けて、ごはんがおいしくいただけで、何でもない日常が送れることは、なんて幸せなんだろう。

そういえばネッククーラーの存在を知って、みんなで着用したのもこの夏。冷蔵庫から冷えたのをとつかえひつかえ交換しながら首に巻いていた。使ってみたら良かったので知り合いに教えた

ら、みんな知っていた。知らないことがたくさんある。



思わず見とれてしまう